

金 銭 ト ラ ブ ル か ら 身 を 守 ろ う

— 地域住民の方にも伝わった授業の成果 —

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、熊本県立玉名高等学校の山形 隆先生に、前任校（熊本県立松島商業高等学校）で2年間（2005年度～2006年度）にわたり実践なさった金融教育についてお話を伺いました。

熊本県の金融教育研究校に指定される

2005年7月、熊本県金融広報委員会から金融教育研究校の指定を受けた熊本県立松島商業高等学校。同校にて、山形先生は2年間にわたり、高校3年生を対象とした金融教育を実践されましたが、そのきっかけは何だったのでしょうか？

「今でも状況は変わりませんが、当時も多重債務、ヤミ金、自己破産などの言葉が新聞やテレビで盛んに流されていました。そうしたこともあったのですが、生徒から金銭トラブルの実態や対処法などについて勉強したいとの要望がありました。じゃあやってみようとい



うことで、2005年度から始めることにしました。ちょうど、3年次に開設している商業科目の二に、課題研究という講座がありますので、そこで金銭トラブルに関する調査研究を行うことを目的とした講座「金銭トラブルから身を守るう」をスタートさせた次第です」

講座は4月から始まりましたが、その後、金融広報中央委員会、およ

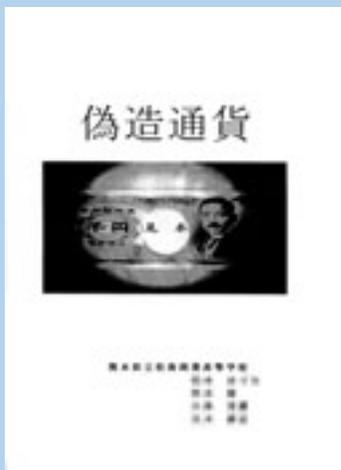
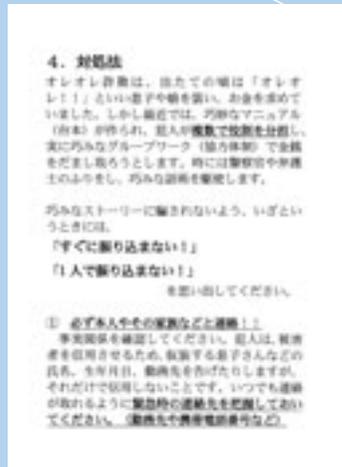
び熊本県金融広報委員会の存在を知り、金融教育研究校の指定を申請。同年7月から、正式に金融教育研究校としての金融教育プログラムが始まりました。

大成功の課題研究「金銭トラブルから身を守るう」

1年目の課題研究「金銭トラブルから身を守るう」に参加したのは、商業科1名と情報処理科8名の計9名の3年生。

まず1学期は、金銭トラブルとは何か、その基礎知識について学び、その後「振り込め詐欺」「フィッシング詐欺」「偽造通貨」などについて、各自が調

熊本県
た ま な
熊本県立玉名高等学校
や ま が た た か し
山形 隆 教諭



定された発表会を待つだけです。

生徒たちは、文字が大きくグラフィックを多用したオリジナルの資料とパンフレットを作りしました。後は、3学期に予定された発表会を待つだけです。

こうした課題研究を進める中、山形先生はある先輩教諭から「生徒の課題研究を、地域の方々にも発表したらよいのでは」というアドバイスを受けた。この時点で、生徒の課題研究は自分たちのものから、地域住民への啓発も意識したものへと大きく変わり始めた。そして、生徒たちも新たな準備に取りかかりました。オレオレ詐欺の被害者の多くは年配の方なので、発表会に来場する方も年配の方が多いと想定して、生徒たちは、文字が大きくグラフィックを多用したオリジナルの資料とパンフレットを作りしました。後は、3学期に予定された発表会を待つだけです。

査を進めました。なかには、高齢者です。だます手口に憤りを感じる生徒もいたほか、この1学期の研究を通して、生徒各自の「金銭トラブル」に対する危機意識がかなり高まったと言います。

そして、夏休み。日銀熊本支店と県消費者センターへの訪問です。

「金融教育研究校に指定されたことをきっかけにお願いしてみたところ、スムーズに実現しました。午前中は熊本支店で支店長のお話を聞いたり、偽造防止の最新技術などを見せていただきました。午後は県の消費生活センターを訪問しました。多重債務問題や振り込み詐欺など、実際の事例を具体的に紹介していただいたので、生徒たちもかなり興味を持って聞いていました。お金の使い方についても、改めて考えさせられたようです」

2学期になると、テーマを絞り込み、より深い研究に取り組むことになりました。9名のメンバーを2班に分け、第1班は「オレオレ詐欺」、第2班は「偽造通貨」を調査研究することにしました。

「情報処理科の生徒が多かったのですが、彼らのスキルからすると、それほど難しくはなかったようです」

一方、「偽造通貨」に取り組む第2班は、全国の被害状況や過去に起こった偽造事件、そして新札や新5000円硬貨に施された最新の偽造防止技術について調査を進めました。

こうした課題研究を進める中、山形先生はある先輩教諭から「生徒の課題研究を、地域の方々にも発表したらよいのでは」というアドバイスを受けた。この時点で、生徒の課題研究は自分たちのものから、地域住民への啓発も意識したものへと大きく変わり始めた。そして、生徒たちも新たな準備に取りかかりました。オレオレ詐欺の被害者の多くは年配の方なので、発表会に来場する方も年配の方が多いと想定して、生徒たちは、文字が大きくグラフィックを多用したオリジナルの資料とパンフレットを作りしました。後は、3学期に予定された発表会を待つだけです。

上・中：1年目に上天草市の松島町総合センターで行われた研究発表会。地元の方々が多数来場されました

下：2年目に松島商業高校で行われた「金融教育公開授業 in 上天草」



2006年2月25日。上天草市にある松島町総合センターの会議室に、年配の方を中心として80名もの地元住民が集まりました。もちろん、生徒たちの「金銭トラブルから身を守る」研究発表会が目的です。

この日のために、万全の準備をしてきた生徒たち。第1班は、自分たちが制作したビデオを上映し、その後スライドでデータなどを見せながら、オレオレ詐欺の手法や対処法を分かりやすく説明。会場の至る所で、大きく頷く来場者の姿が見られました。また、第2班の偽造通貨では、偽造防止技術の説明を聞きながら、ご自分の紙幣を出し見比べる方もいて、ともに関心の高さがうかがえました。

生徒の研究発表が終わると、山形先生による補足説明と、「詐欺にだまされる人の心理」と題したお話があり、最後は熊本県金融広報委員会

の金融広報アドバイザーによる「金銭トラブルから身を守る」悪質商法・多重債務脱出法」と題した講演が行われました。

生徒の要望から始まった課題研究ですが、実に見事な成果と広がりを見せました。

「そうですね。生徒自身が意欲的だったということが大きいですが、金融教育研究校に指定されたこと、それと先輩の先生方からのアドバイスにも助けられました。『金銭トラブル』の実態や、『借金の怖さや貯蓄の大切さ』を知るという成果は、課題研究に取り組んだ9名だけではなく、校内での課題研究発表会、そして地域での研究発表会を通して、全校生徒や地域住民にもたらされたと思います」

公開授業に挑んだ 2年目の金融教育

1年目に実施された金融教育の成果をもとに、2年目は商業科目の「経済活動と法」の中で、改めて金融教育を実施することになりました。「経済活動と法」は選択科目ですが、この科目を選択したのは商業科の10名の生徒。1年目とほぼ同じ規模の人数で、金融教育が進められたわけです。

まず1学期は教科書に沿い、「法律の種類」「権利・義務と財産権」

して「財産権と契約」などを学び、基本的な法律知識を習得。

2学期に入ると前半は、金融広報中央委員会が発行する冊子『きみはリッチ?』を使い、カードの種類と役割、クレジットカードの仕組み、利息、保証人などについて学習。また、テキスト以外にも、金融トラブル予防のための情報を提供しているNPO法人のサイトを活用し、そこに登録されている「振り込め詐欺」や「催眠商法」などのビデオ視聴も授業に取り入れています。

2年目のハイライトは何と言っても、2学期の後半、2006年11月10日に松島商業高校にて行われた「金融教育公開授業 in 上天草」です。前年度の実績をもとに、年度初めから計



2年目に教材として使った金融広報中央委員会発行の「きみはリッチ?—多重重務に陥らないために—」



画していた公開授業です。当日は、一般参観者、父母、学校関係者、金融機関の関係者など約50名が、図書館前のホールで行われた公開授業に駆けつけました。

このときの公開授業のテーマは、「ネットオークション詐欺」。テーマを決めるに当たり、事前に生徒にネットオークションの経験を質問したところ、出品した経験はないものの、半数の生徒が入札の経験があると回答。ネットオークションの普及度の

の高さに、山形先生は認識を改めたと言います。授業のポイントは3点で、第1は、ネットオークションの利便性と危険性。第2は、トラブルに巻き込まれないための方法。そして第3が、万一トラブルに巻き込まれた際の対処法です。

授業は実際のネットオークション詐欺事例をもとに、「何が問題でどうすれば

解決できるか」を生徒たちに自主的に考えさせる形で進められました。そして、公開授業後の参観者のアンケートには、「具体的に分かりやすかった」「生徒二人が授業に参加していた」「商業科のことが少し分かった」「小額訴訟制度や内容証明郵便の説明がもう少ししほしかった」などのコメントが寄せられました。

今後も、人生設計に役立つ金融教育を実践したい

2年間にわたり金融教育を実施した山形先生。経験を踏まえながら、最後に次のように語ってくれました。

「今の高校生は、金銭トラブルに関する法律とか、それを回避する方法についてあまり知識がないと思います。高校生と言えども卒業して2年もすれば成人です。前任校における卒業前のアンケートで、研究メンバーの1人が「研究したことを今後の生活に生かしていきたい」と書いていたが、やはり厳しい社会で生きていくわけですから、金融教育は不可欠だと思っています。また、この実践では金銭トラブルの回避や対処方法にポイントを置きましたが、機会があれば今

後はお金の面から見た人生設計、あるいは手元にある資金の適切な運用といった金融教育をやれたらと考えています」

現在、玉名高校で教鞭を執られている山形先生。前任校で実施した金融教育は行っていないませんが、玉名高校が市民向けに開催している講座で、金融教育をやってみたいと考えているそうです。

2年間の活動概要

■1年目 「金銭トラブルから身を守ろう」(3年生課題研究)

1学期 : 各個人による調査研究 夏休み : 日本銀行熊本支店見学 熊本県消費生活センター訪問	3学期 : 研究成果発表 (1)校内課題研究成果発表会 (2)「金銭トラブルから身を守ろう」研究発表会(2006年2月25日 松島町総合センター)
2学期 : 班による調査研究 (第1班)オレオレ詐欺 (第2班)通貨偽造	

■2年目 「経済活動と法」(3年生商業科選択科目)

1学期 : 法律知識の習得	
2学期 : 「きみはリッチ?」(金融広報委員会発行)の活用 NPO法人が提供する金融トラブル予防情報サイトの視聴 金融教育公開授業の実施(2006年11月10日 熊本県立松島商業高等学校)	

金銭トラブルから身を守ろう

— 地域住民の方にも伝わった授業の成果 —

熊本県

熊本県立玉名高等学校 山形 隆教諭